



学校だより

第724号

令和2年10月29日

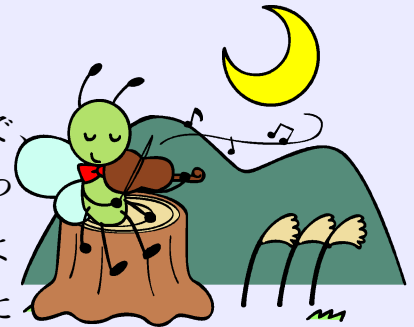
並木通信

〈学校教育目標〉 『わたしの生活は わたしが創ります!』

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/namiki/> 横浜市立並木第一小学校 (並木第一小学校で検索)

光と影

校長 川村真弘



夜空に浮かぶ三日月。

一日の仕事を終え、学校から自宅に向かう帰路途中で、その日は何だか三日月を見つけ感激した。ほっと一息ついて、夜空をしばらく見上げる。三日月の円弧に浴うようにしゅっと指でなぞるとそれが地球の影であることに思い至る。地球が円形であることの証左だ。そして、月の形と光・影の関係について、月と太陽、地球の位置関係を想像したり、夜空や月など自然に触れていたりすると何だか元気にもなった。

月は光と影が織り成す造形美。以来、毎夜のように月を探してみた。昔から人は月に風情を感じ、形ごとに名前を付けた。十五夜、十三夜、十六夜、立待月、居待月、寝待月、更待月、有明月、春月、夏月、秋月、冬月、朧月、寒月、孤月、青月、黄昏月・・・。新型コロナウイルス感染症流行への対策に気の休まることのない毎日の中で、一時、無心になって月を見上げる。慣れに対する警告として一段と厳粛に規律を求める今だからこそ反対に、時々、気を緩めることもまた大事なことだと月を眺めて、そう考える。

昼の陽光が気分を高めたり、夜の月光が気分を静めたりするように、物事には光と影のようなバランスが大事なのだ。自然に対して慎ましく謙虚でありつつ規律を厳守しながらも、時に気を緩めることも大切なのだと思う。

11月、6年生と一緒に日光に出かける。規律を厳守し、安全策には万全を期す分、気持ちを少し緩め、自然に学び、美を鑑賞し、歴史を味わい、思い出をたくさんつくってこようと思う。

日光男体山も、とっくに初冠雪をすませたようだ。冷たく透き通った空気の中で子どもたちと月を眺めたい。



並木の街を故郷に！ 「あいさつで心豊かな一日を！」